# 音 楽 科 授 業 案

日　時　平成２６年２月２７日（木）　　６時間目
生　徒　１年Ｃ組　男子１３名　女子２１名　計３４名
授業場　音　楽　室
授業者　齊　藤　貴　文

---

**１　題材名**　「情景を表した音楽」（鑑賞領域：鑑賞分野）

題材：「和声と創意の試み」第１集「四季」から春　第１楽章　冬　第２楽章　作曲　A．ヴィヴァルディ

〔共通事項〕ア　強弱　速度　音色　旋律　テクスチュア

**２　題材について**

（１）題材観

スマートフォンやタブレット端末機をはじめ、あらゆるものが直感的に操作できる現代に入り、追求されるものは簡単でわかりやすいことの重要性が高い。音楽の世界においてもその傾向は強く、タブレット端末機で何種類もの楽器を操作でき、ボタンひとつで、あるいは指を動かすだけで演奏・録音が可能になり、さらには、音楽は無限に広がるネットワーク上から簡単に取捨選択できる。しかし、簡単で直感的な環境に身を置くことで、音楽そのものが簡単で直感的なものであることへの期待が膨らんでいるのではないだろうか。マーセルも「音楽は楽しいものです。しかし、やさしいものではありません」と言っているように、

音楽は決して楽しいだけの世界ではなく、よりよい音楽活動を求めれば求めるほど楽曲の複雑さが増し、技能習得の難しさという壁が立ちはだかるのである。

学校教育における音楽科の使命は豊かな心の育成にある。義務教育９年間を通して様々な音楽体験を通して豊かな情操を育み、生涯にわたって音楽文化に親しむ態度を育てることが求められている。

本来、児童生徒は音楽の時間を好み・楽しんできた。しかし、学年があがるにつれ、直感的・感覚的に楽しんできた音楽題材の質の高まりによって、直感や感覚だけではそのよさを感得し難くなることや、技術が伴わず思うように表現することができなくなることから音楽活動から心が離れてしまうことが少なくない。しかし、その壁の先にこそ、よりよい音楽の味わいや深さがあり、それを実感することにこそ生涯にわたって音楽活動を行う原動力があると考える。

本題材「情景を表した音楽」は、ヴィヴァルディ作曲による「和声と創意の試み」第１集「四季」より「春」と「冬」を用いて、音楽の要素の働きによって情景が変化する美しさや味わいを感得する題材である。

この楽曲はソネットを忠実に音楽化する方法で作られており、ソネットという詩を媒介として情景が想像しやすい楽曲である。また、楽器編成や楽曲の複雑さ、長さからいっても発達段階に相応しい内容である。

音楽活動の原点は聴くことにある。直感的なよさだけではなく、作曲者、あるいは演奏者がその一音に込めた思いに思いを馳せることこそが、音楽のよさを味わうことであり、自分が表現するときの原点ともなるはずである。

今回の実践では、ソネット（情景）と音楽のつながりを感得するだけではなく、ソネットを探る活動を行うことで作曲者の意図を考え、音楽を主体的に聴き取らせていく。要素からソネット（情景）を考えることは決して容易ではないが、作曲者の意図を考えることを通して、音楽の要素と情景を主体的に結びつけようとする姿を期待している。

（２）生徒観サーベイ・アンケートより　省略

（３）指導観

以上のことから、本題材においては、これまでの既習事項としての要素の認識の深さを図るために、楽曲を「深く聴く」ことを目的とし、要素の聴き取りからはじめ、音楽を構成している要素とそれらの働きによる情景の変化を感得させていく。また、聴き取る順序を提示することにより、味わい方を示すこととした。

次に、今回の研究の視点に関わる手だてを述べる。

音楽科では、小中共通の教科主題を「自ら主体的に音や音楽のよさを感じ、味わおうとする児童・生徒の育成（仮)」と設定した。主題はそのまま音楽科として自律的に学ぶ児童・生徒の姿を表現したものである。中学校としてそうした姿に近づけるために、以下の手だてを設定する。

（１）　「やるべきこと」「やりたいこと」「やれること」の関係から　（１）

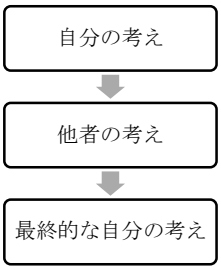
**題材レベルにおける既習事項を活用した「聴く活動」の設定**

音楽科の「やるべきこと」とは音楽のよさや美しさを感じ・味わうことにある。鑑賞においては、楽曲を聴き取ることを通して、自己の世界観を広げ、そのよさや美しさがどんな要素から成り立っているかを探り、言葉で適切に表現することが求められる。「やりたいこと」とは生徒の関心・意欲の方向である。音楽は楽しいものではあるが、易しいものばかりではない。芸術性・音楽性が高まれば高まるほどその内容は決して易しいものではない。むしろ複雑な要素が絡み合うことによって美しい統一体を作っていることから、発達段階に応じた適切な題材設定を行うことはもちろん、複雑さが増した題材に対して主体的によさや美しさを感得したくなるような手だてが必要である。「やれること」とは既習事項の定着にある。しかし、鑑賞においては、小学校低学年が聴く音楽と中学校３年生が聴く音楽には複雑さの程度はあるが、構成する要素は基本的には変わらない。このことから、鑑賞において「やれること」はこれまでの鑑賞活動をとおして育んできた、

聴き取る力の程度を指すこととなる。

（２）　「言語化」を通して　（２）

**楽曲を聴き取る場における要素の焦点化と WS による記述の蓄積**




「やれること」の自覚において、要素の焦点化を行う。

音楽は時間が経過するとともに、要素同士が複雑に絡み合って美しい音楽を構成している。その要素同士の統一体としての音楽を聴き取るためには、聴く視点が必要であり、その視点がどのレベルまで聴き取ることができるかが、聴き取る技能の高さであり、音楽性の高さにつながっているのである。そこで、聴き取るべく要素を焦点化することとともに、自己の考えを図のように WS に記入させることで、聴き取りの視点に対するレベルの深さを認識し、さらに他の意見をまとめ、記述を蓄積させていくことで、自身の理解や世界観の広がりにつながると考えた。

（３）　「共同」「協同」「協働」の場を通して（３）　　**自己の楽曲の価値を深める「対話の場」の設定**

本来鑑賞は非常に個人的なものであり，渡邊も「最終的には主観の世界」だと言ってはいるが，自己の世界に閉じてしまっていては，自己の世界に「広がりや深まり」を感じることができず，よりよい音楽美を感得していくことが難しい。そこで，他者との交流によって得た音楽の聴き方，あるいは味わい方を自分のものにしていくことができれば最終的な鑑賞の場において楽曲から感じ取ることがさらに広がり，深まることにつながっていくと考えた。

**３　題材の目標**

「四季」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、主体的に解釈したり価値を考えたりしてよさや美しさを味わうことができる。

**４　評価規準**

| 関心・意欲・態度 | 鑑賞の能力 |
|---|---|
| ア　「四季」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュアや構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 | ア　「四季」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。<br>イ　知覚・感受しながら、「四季」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。 |

**５　題材指導計画（２時間計画）**

<table>
<tr><th></th><th>学　習　事　項</th><th colspan="2">主な学習活動・手だて</th><th colspan="2">評　価</th></tr>
<tr><th></th><th></th><th colspan="2"></th><th>関</th><th>鑑</th></tr>
<tr><td>関連</td><td colspan="5">『魔王』<br>『ブルタヴァ』</td></tr>
<tr><td>1</td><td>○ソネットと楽曲のつながりを考えることから、作曲者の音楽表現の意図を探る。<br><br>協奏曲「四季」より「春」第１楽章</td><td>○プレテストを行い、楽曲の特徴を探る視点を持つ。<br>○ソネットと楽曲のつながりの根拠となる要素を把握する。<br>○作曲者が意図したソネットとのつながりの根拠について記述する。</td><td rowspan="2">・楽曲を聴き取る場における要素の焦点化と WS による記述の蓄積（２）<br><br>・自己の楽曲の価値を深める「対話の場」の設定（３）</td><td>ア</td><td>ア</td></tr>
<tr><td>２<br>本時</td><td>○楽曲の要素を根拠としてソネットを考えることを通して、音楽と情景のつながりを考える。<br><br>協奏曲「四季」より「冬」第２楽章</td><td>○楽曲の特徴から情景をイメージし、要素から根拠を持って、楽曲に付けられたソネットを考え、記述する。<br><br>題材レベルにおける既習事項を活用した「聴く活動」の設定（１）</td><td>ア</td><td>イ</td></tr>
</table>

## ６　本時案

（１）　本時の目標

楽曲の要素を根拠として音楽と情景のつながりを感じ取り、ソネットを考えることができる。

（２）　本時の展開（２／２）（○…発問，△…補助発問，□…指示，説明）

| 主な学習活動（下位目標） | 教師の働きかけ・手だて | 【評価方法】・備考 |
|---|---|---|
| １．　楽曲を聴取しながら、楽曲の要素を聴き取り発表することができる。<br>【中心的な要素】<br>音色：Vn,Va,Vc<br>速度：遅い、ゆるやか<br>強弱：大きな変化は少ない | ○楽曲の一部を聴きます。「音色（楽器名）・速度・強弱」について聴き取りましょう。<br>○この曲も Vivaldi 作曲の「四季」のひとつですが、どの「四季」を表していると思いますか。<br>□もう一度聴いてみましょう。 | 【挙手・発表】 |
| ２．どの「四季」にあてはまるか考え発表することができる。 | ○この曲は「冬」の２楽章ですが、ヴィヴァルディはいったいどんな冬の情景を表現したかったと思いますか。 | 【発表】 |
| ヴィヴァルディがこの曲を「冬」にした理由を要素から探り出し、この曲のソネットを考えよう。（１） | | |
| ３.楽曲を聴いてこの曲から受ける冬のイメージをふくらませ WS に記入することができる。<br>・ヴァイオリンの旋律が、○○のように聞こえる。<br>・弦楽器のスタッカートが○○のように聞こえる。<br>・緩やかな速度が、穏やかな冬を感じさせる。<br>・チェロの旋律が○○を感じさせる。 | ○ソネットとは何でしたか。<br>□ヴィヴァルディが活躍した時代に流行った短い詩の事をソネットという<br>○楽曲を聴き取り、楽曲から受けるイメージと作品の要素（音色・速度・強弱・リズム・旋律・音高など）を関わらせて、作曲者がこの楽曲で表現した冬の情景（場面）を考え、WS に記入しよう。（２）<br>□３回聴くので①よく聞こえるもの②聞きにくいもの③全体を聴いてみましょう。<br>△その情景が浮かんだ根拠は要素のどんな様子からだろう。<br>△その様子はどんな場面と結びつくだろう。 | 【WS・発表】<br>【WS・観察】 |
| ４.班で交流を通して楽曲のしくみを考え深める。<br>５.楽曲のソネットと楽曲に込められた意図を理解知ることができる。 | □班で、楽曲の思いを交流し、最終的な自分の根拠となる要素とソネットを WS に記入しよう。（３）<br>□この楽曲のソネットと、この楽曲に込められた意図を紹介します。 | |
| **「冬」のソネット：暖かい暖炉で人々が安らかに過ごす間に、外では恵みの雨ですっかり潤う。**<br>暖かな屋内の様子を描いています。ここで出てくるメロディは，「四季」の中でもいちばん魅力的なものです。合奏部のピツィカートの伴奏の上に独奏ヴァイオリンが穏やかでしみじみとした味わいをもった美しいメロディを朗々と歌って行きます。これは火のかたわらでの静かで満ち足りた日々を描いています。伴奏のピツィカートはしとしと降る雨を描写しています。 | | |
| ６.この楽曲のソネットと楽曲のつながりを考えながら作品を聴き、作曲者がこの曲に込めた思いを感じ取り WS に記入することができる。 | ○この曲のソネットと楽曲のつながりを考えながらこの作品を聴き、あなたが作曲者から受け取った楽曲のイメージとその理由 WS に記入してみよう。 | 【WS】 |

６　本時案

（１）　本時の目標

楽曲の特徴を感じ取り、ソネットの

（２）　本時の展開（１／２）（○…発問，△…補助発問，□…指示，説明）

| 主な学習活動（下位目標） | 教師の働きかけ・手だて | 【評価方法】・備考 |
|---|---|---|
| １．　単元のねらいを知り、学習の見通しをもつことができる。 | □今日から２時間「鑑賞」の学習をします。 | 【発表】 |
| 情景と音楽のつながりのひみつを考えよう | | |
| ２．楽曲を聴取するポイントを絞り、既習事項の定着を自覚することができる。<br>楽曲　春<br>楽器名　Vn,Va,Vc,Cb | □まず次の曲を聴いて、曲名と楽器名を確認しましょう。<br>△楽器名がわからない場合は、楽器の分類（弦・管・打）の中ではどうだろう。<br>□この曲は「和声と創意の試み」第１集「四季」より春第１楽章といいます。 | 【発表】 |
| ３．春と呼ばれるための音楽の要素について考えることができる。<br>速度・強弱・音色・音高・リズムなど | 作曲者は A.Vivaldi（１６７８−１７４１）<br>協奏曲の父と呼ばれています。<br>○さて、この曲はどうして春と呼ばれているのでしょう。その根拠となるのは音楽のどんな要素だと思いますか。 | 【WS・発表】 |
| ４．最初の部分を聴き、春と言われる理由を考えることができる。 | □次の部分を聴いて、その根拠を WS に書いてみましょう。　　音の高さ・音色・リズム<br>□じつはこの曲にはこのような詩がついています。<br>A 春が陽気にやってきた<br>B 春の到来を告げる風が泉にふきかかると、どの泉も優しくささやき流れだす<br>C 黒い雲が空を覆い、春を告げるために選ばれた稲妻と雷鳴がやってくる<br>D 鳥達が楽しい歌であいさつをする | |
| ５．ソネットと音楽の関係を考え、要素をもとに根拠を持って探り記述することができる。<br>６．班で交流し、特徴と根拠が妥当であるかを吟味することができる。<br>７．本時の振り返りを通して、本時のねらいが達成されたかどうかを判断することができる。 | □ヴィヴァルディが活躍した時代に流行った短い詩の事をソネットと言い、この曲にはソネットを忠実に音楽化する方法で音楽を作っています。<br>○では、曲を聴いて、音楽とソネットの関係を根拠をもって探り WS に記入しましょう。<br>その際に、音の高さ、楽器の音色、リズムなどの語彙を用いて説明しなさい。<br>□班で交流しよう<br>□今日の学習のねらいが達成されたかどうかを記述しましょう。 | 【WS】 |